

# 豊かな未来を切り拓く子供の育成

～新たな価値をつくり出す

個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実のある授業を通して～

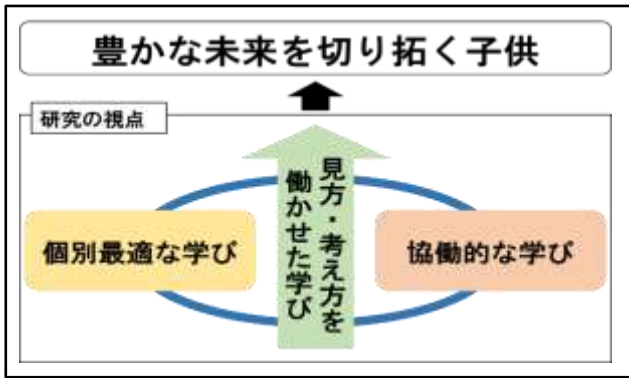
## 豊かな未来を切り拓く子供とは

- 自分のよさや可能性を認識できる子供（自己理解と自立）
- 他者を価値ある存在として尊重し、多様な他者と協働できる子供（他者理解と協働）
- 課題解決につながる新たな価値や行動を生み出すことができる子供（創造）



鹿屋市立鹿屋小学校

## I 研究構想



「見方・考え方を働かせた学び」を軸に、「個別最適な学び」を「協働的な学び」に生かし、さらにその成果を「個別最適な学び」に還元するなど、「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実させ、新たな価値をつくり出す経験の積み重ねにより子供たちの可能性を引き出し、豊かな未来を切り拓く子供に迫ります。



### 個別最適な学びを充実させるために

- 子供が自己調整しながら自立的に学習を進めることができるようにしよう！
- 子供各々の興味・関心や、こんな自分になりたい・こんなことができるようになりたいという一人一人に応じた学習活動・学習課題により学習の個性化を図ろう！
- 必要に応じて一人一人に合った指導方法の工夫により指導の個別化を図ろう！

### 見方・考え方を働かせた学びを充実させるために

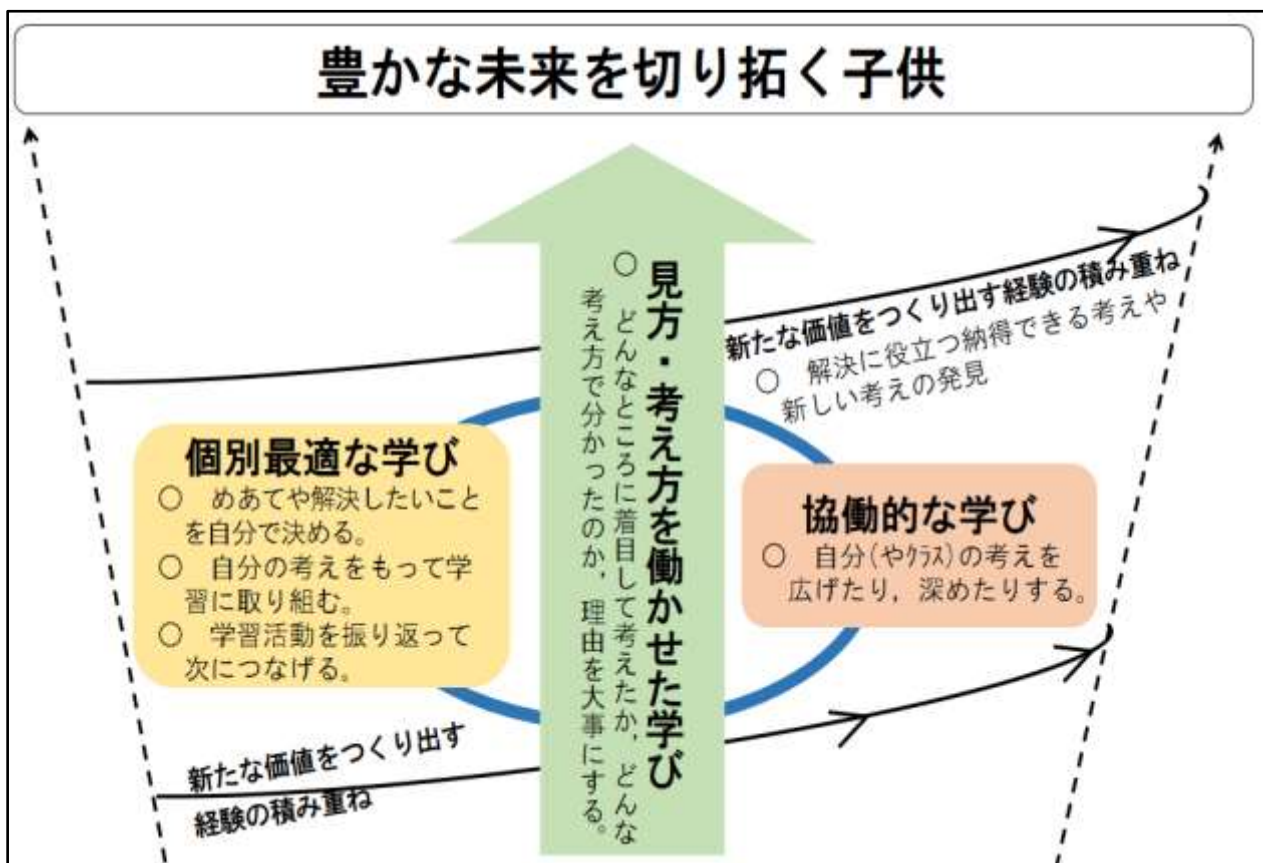
- 子供が見方・考え方を働かせて、学びを相互に関係付けて理解することができるようにしたり、見方・考え方を働かせて、納得できる考えや新しい考えをつくり出して解決したりすることができるよう、教科等の本質に迫りながら学びの深化を図ろう！



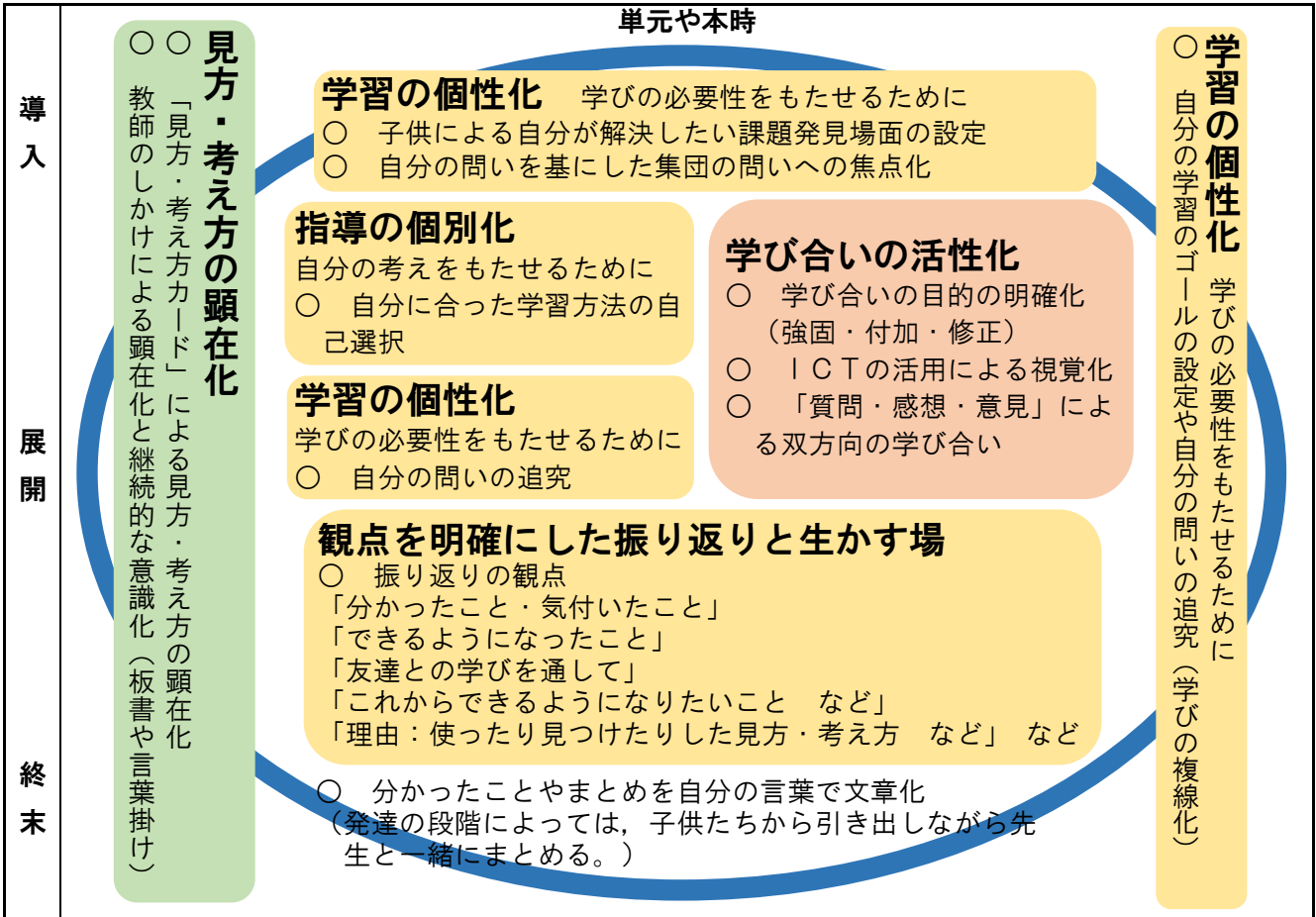
### 協働的な学びを充実させるために

- 多様な他者と協働し異なる考え方を組み合わせ、よりよい学びを生み出し、よりよく解決することができるようにしよう！

## II 目指す子供の学びの姿



### Ⅲ 研究の内容（授業デザインの具体）



鹿屋小相互授業参観の実践より



# 国語科

## 個別最適な学びのための授業デザイン【個別最適】

### ア 自分の問いをもてるようにするために

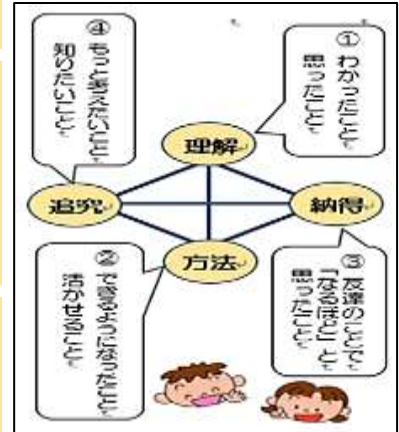
- 言語活動の工夫（既習事項とのつながりを意識して言語活動を設定することで子供が解決したいと思う課題を発見できるようにする。）
- 学習ゴールの提示（学習のゴール意識させることで、自分のめあてをもてるようにする。）
- 見通しをもたせる活動場面の設定（単元や本時の見通しをもたせる活動場面を設定し、自分のめあてを一人一人に立てさせ、その上で、クラス全体のめあてを立てさせる。）



学習方法の複線化

### イ 自分の考えをもてるようにするために

- 自分の考えを選択して決められる課題や発問（「AかBか？」など答えを自己選択・判断させる課題や発問を設定することで、自分の考えをもつきっかけになるようにする。）
- 学習方法の複線化（自分で考える・友達と考えるなどの学習形態を自分で自由に選択して学べるようにする。）



振り返りの観点

### ウ 自分の学びを振り返り、新たな問いや学習、日常につなげられるようにするために

- 振り返りの観点の提示（①「分かったこと、思ったこと」②「できるようになったこと、生かせること」③「友達のこと『なるほど』と思ったこと」④「もっと考えたいこと、知りたいこと」）
- 振り返りを生かす場の設定（子供の振り返りを授業の最後や次時の導入で紹介するなどして、「見つけたことが生かせそうだ」という実感をもたせたり、新たな問いにつなげたりする。）



子供の実態の振り返り

## 協働的な学びのための授業デザイン【協働的】

### エ 考えを広げたり深めたりすることができるようにするために

- 学び合いの目的の明確化（自分の考えをよりよくするために比較し合い、自分の考えに付加などをする場を設定する。）
- 視覚化による共有（タブレット型端末や付箋などの学習補助ツールを活用し、互いの考えの共有を図る。）
- 「質問・感想・意見」による子供同士の学び合い（認め合い、自分の考えに自信をもてるようにする。また、感想に加えて質問や意見を伝えることで、相手の考えを深く知り自分の考えに生かすことができるようにする。）

## 見方・考え方を働かせた学びのための授業デザイン【見・考】

### オ 言葉による見方・考え方を踏まえた理由や根拠をもてるようにするために

- 「見方・考え方カード（国語の言葉）」の活用（単元で使う言葉をカードにし黒板に提示することで、国語の言葉に着目できるようにする。）
- 教師のしかけによる働かせてほしい見方・考え方の顕在化（考える視点を明らかにするために、複数のモデルを提示したり、揺さぶる発問を行ったりする。また、自分の考えの根拠を本文や資料と関連付けて見付けさせ、自分の考えを相手に伝えさせる。）
- 見方・考え方の意識化（板書等で本時で働かせた見方・考え方を見える化しておくことで、子供が本時のまとめをするときに自然と見方・考え方に着目して、まとめたり説明したりできるようにする。そして、そのまとめが、日常など他の場面でも使えることに気付かせて一般化していく。）



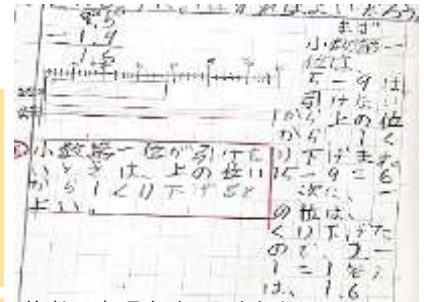
複数のモデルの提示(比較して考える)

# 算数科

## 個別最適な学びのための授業デザイン【個別最適】

### ア 自分の問いをもてるようにするために

- 学習課題の工夫（条件不足・過多の課題，条件変える等）
- 自分の問いからめあてを立てる場面の設定（一人一人自分のめあてを立てさせ，自分事の学習としてスタートした上で，クラス全体のめあてを立てさせる。）



複数の表現方法で記されたノート

### イ 自分の考えをもてるようにするために

- 学習方法の複線化（自分や課題に合った解決のための数学的な表現方法や，自分で考える・友達と考える・ヒントを使って考えるなどの学習形態などの学習方法を自分で自由に自己選択して学べるようにする。）
- 子供それぞれに応じた手立ての準備（評価基準を設定し，それぞれの到達度に応じることができるようにする。）



学習方法の複線化

### ウ 自分の学びを振り返り，新たな問いや学習，日常につなげられるようにするために

- 振り返りの観点の提示（「き・つ・と・できる」  
き：きづいたこと    つ：つかったモンスター    と：ともだちの考え    できる：できるようになりたいこと
- 自分の学びの状況を自覚する振り返りの工夫（めあてを立てるときに自分がどれくらいできそうか予測し，まとめを自分で整理するとき達成度を自己評価することで，「もう少し，〇〇を分かりたいな。」などの自分の学びの状態（変容）を自覚し，次に生かせるようにする。[低学年→赤・青色，中学年→1～5段階，高学年→1～10段階]）
- よりよい振り返りの姿の想定を基にした授業デザイン

## 協働的な学びのための授業デザイン【協働的】

### エ 考えを広げたり深めたりすることができるようにするために

- 学び合いの目的の明確化（自分の考えの強固・付加・修正）
- ICT を活用した視覚化による共有
- 「質問・感想・意見」による双方向の学び合い（感想に加えて質問や意見を伝えることで，相手の考えを深く知り，認め合い，自分の考えに生かすことができるようにする。）
- 教師のファシリテーター的役割（子供の考えや言葉をつなげることで，子供同士の学び合いを促進する。）

## 見方・考え方を働かせた学びのための授業デザイン【見・考】

### オ 数学的な見方・考え方を働かせて根拠をもてるようにするために

- 数学的な見方・考え方の「抽出」・「顕在化」・「意識化」  
抽出：子供の考えの中から，働いている数学的な見方・考え方を教師が見抜き，言語化・視覚化する。そのために，本時で働かせる数学的な見方・考え方を教師自身が把握・吟味しておく。  
顕在化：子供が働かせた数学的な見方・考え方を見える化し，広げていく。そのために，「見方・考え方カード（九つのモンスターカード）」（学校図書の教科書）をヒントにさせたり，板書に掲示したりする。  
意識化：働かせた数学的な見方・考え方を他の場面でも働かせることができるように，汎用性に気付かせたり，今後働かせるための意欲を喚起したりする。そのために，振り返りなどで使ったモンスターについて，使った理由や今後使えそうな場面などとの関係付けを図る。



学び合いの様子



ファシリテーター役になる教師



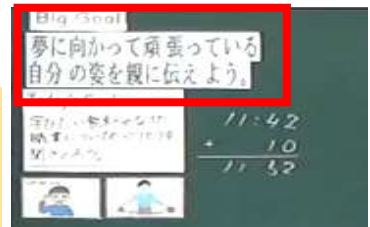
数学的な見方・考え方を顕在化させた板書：6年「円の面積」

# 英語科

## 個別最適な学びのための授業デザイン【個別最適】

### ア 自分の問い（自分のめあて）をもてるようにするために

- 単元のゴールの工夫（挑戦してみたいと思うような終末の活動や個人の課題設定、伝えたい内容を選択させることにより、学習の目的（必然性）をもたせる。）
- 興味・関心を高める視覚教材の活用（子供にとって身近な内容を扱うことで、自分事として自分の問いをもてるようにする。）
- いろいろ教える前にまず言語活動に挑戦させる（まず挑戦させることで、自分の課題に気づき、自分の問いをもてるようにする。）



目的・相手意識をもたせる単元目標の設定の工夫

### イ 自分の考えをもてるようにするために

- 自分に合った学習方法の選択（教科書やタブレット型端末を用いて自分で調べる、先生・友達に聞く、モデル動画を視聴する、自分の姿を撮影して客観的に見る等を子供が自己選択して学習できるように個別の手立てを準備する。）
- 様々な難易度の質問（自分の考えをもって進んで答えられるように、子供の実態に合わせて質問の難易度を調整する。  
例： Do you like pink? What color do you like?）



視覚教材の活用

### ウ 自分の学びを振り返り新たな問いの発見や次の学習、日常につなげられるようにするために

- 振り返りカードの活用（分かったこと、できるようになったこと、今後頑張りたいこと、言えるようになりたい表現等を記入）
- 振り返りを共有する場の設定（授業の最後に振り返りを発表する場を設け、日常のコミュニケーションに生かしたい気持ちや今後学びたいことなどを共有させる。）



ペアでのやり取り

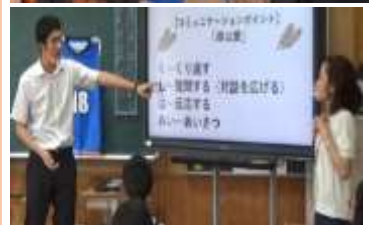
## 協働的な学びのための授業デザイン【協働的】

### エ 考えを広げたり深めたりすることができるようにするために

- 目的に応じた学び合い
  - ・ペアでの交流：絵・写真や動画を見て気付いたこと、聞こえた英語等について話し合わせることで、自信をもたせたり自分の知識・表現を広げたりさせる。
  - ・グループでの交流：発表の仕方・内容についてアドバイスし合うことで、多様な表現や考えに触れさせ、自分の表現に生かすようにさせる。
  - ・中間指導：活動の途中で児童のよかったところと改善点を伝え、その後のコミュニケーション活動に生かせるようにする。
- ICTを活用した学び合い（タブレット型端末で互いの発表を録画し、それをお互い見合ってアドバイスなどをし、自分の表現に生かせるようにする。）



中間指導



コミュニケーションポイントの確認

## 見方・考え方を働かせた学びのための授業デザイン【見・考】

### オ 外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、表現（コミュニケーション）することができるようにするために

- 言語活動の工夫（目的・場面・状況を明確に設定する、何を誰にどのように伝えるかを意識させる継続的な声かけを行う。）
- 既習と関連付けて相手を意識した表現の活用（難しい表現を無理に使うのではなく、既習表現で使える表現はないか、言いたいことを簡単に言い換えることはできないかという視点を大切に、コミュニケーション活動を行う。）



Small Talk における作戦タイム

※ 目的・場面・状況が設定された言語活動を行う際、見方・考え方は、上記の取組の多くで働く。

#### <コミュニケーション力育成のための手立て>

##### ★ コミュニケーションポイントの指導

- ・1～4年生…六つの視点（目を見て、笑顔で、よく聞いて、声の大きさ、ジェスチャー、積極的に）
- ・5・6年生…合言葉「串は愛」（く：繰り返す、し：質問、は：反応、あい：挨拶）

##### ★ Small Talk の充実（既習事項の定着、新出表現の導入、対話の続け方の指導）

- ・オールイングリッシュタイム（世界の天気、今日は何の日、芸能人の誕生日等についてのやり取りなどを本時の内容と関係付け、既習を生かしながら自然と本時の学習場面で表現できるようにする。）
- ・子供同士の Small Talk（30秒×2セット、テーマは単元に関する内容や既習事項、1セット目と2セット目の間に小グループや全体で、言いたかったけど言えなかった表現等について話し合う作戦タイムを設けることで、これまでの学習と関係付けて実際のコミュニケーションにおいて活用できるようにしていく。）

## 特別支援教育（自立活動）

自立活動の指導は、個々の児童が自立を目指し、障害による学習上又は生活上の困難を主体的に改善、克服しようとする取組を促す教育活動である。平成30年3月の特別支援学校教育要領・学習指導要領解説 自立活動編では、自立活動の内容として1健康保持(4)障害の特性の理解と生活環境の調整に関することが新たに示された。自己の障害の特性と、それらが及ぼす学習上・生活上の困難についての理解を深め、その状況に応じて、自己の行動や感情を調整したり、他者に対して主体的に働きかけたりして、より学習や生活をしやすい環境に自ら整えていく力を身に付けていく必要があることを意味している。そのためには、教師側が的確に実態を把握し、それを学習活動に反映していくことや、子供自身が自分の特性に気付いて学習していくことが大切になる。

### 個別最適な学びのための授業デザイン【個別最適】

#### ア 自分の問い（自分のめあて）をもてるようにするために

- チェックリスト等を利用した的確な実態把握と個別の指導計画の作成・活用
- 個々の教育的ニーズに基づいた学習活動の設定
- 子供が学びの必要性を感じることでできる活動計画や導入の工夫（子供の困難さの克服に合わせた、子供がやりたいと思う学習のゴールを設定する。そして、普段の自分の想起をもとに、設定したゴールに向けてどんなことができるようになったらよいかを考えさせ、学びの必要感をもてるような授業デザインをする。）

#### イ 自分の考えをもてるようにするために

- 活動の見通しをもつことができる構造的な板書やワークシートの工夫
- 個々の特性に応じた手立ての工夫（例：表情カードにより感情についての考えをもたせたり、4コマ漫画により、場面を想起しやすくして吹き出しに自分の考えを書かせたりさせるなど。）
- 子供自身のつぶやきや気持ちの教師による言語化・視覚化



自分の苦手場面について話し合う姿

#### ウ 自分の学びを振り返り新たな問いや学習、日常につなげるようにするために

- 達成感を感じることができる振り返りの設定（発達段階に応じて、頑張ったことに対してスタンプが増えたり、頑張ったことに対して友達や先生からの称賛をもらったりする場を設けることで達成感を味合わせ、次への意欲につなげる。）
- 日常生活の「学びを生かす場面」を想定した授業デザイン（学んだことがどんな場面で生かされるのか想定して授業をデザインすることで、子供にとっては学ぶ目的が生まれる。教師にとっては、子供が学んだことを生かせたかどうか見取ることができる。そして、その見取りを子供にフィードバックすることで、学びの連続性につなげることができる。）
- 交流学級担任、在籍学級担任と連携した指導と見届け
- 学びの履歴としてのワークシートの活用



活動の見通しをもつことのできる板書の工夫



めあてを確認し、自分や友達の頑張りを振り返る様子

### 協働的な学びのための授業デザイン【協働的】

#### エ 考えを広げたり深めたりすることができるようにするために

- 実態に合った「考えが広がった・深まった姿」の想定（子供の実態に応じて「考えが広がった・深まった姿」を想定し、学び合うよさが感じられる協働的な場面を設定する。）
- 自他のがんばりやよさを視覚的に確認するためのタブレット型端末の活用（例：互いにタブレット型端末で様子を録画し合い、それを見合うことで、客観的に頑張りや改善点を確認できるようにすることで、自分の学びをよりよくしていけるようにする。）



協働的に学び、友達のがんばりを尊重する様子



振り返りで活用するために互いの姿を撮影する様子

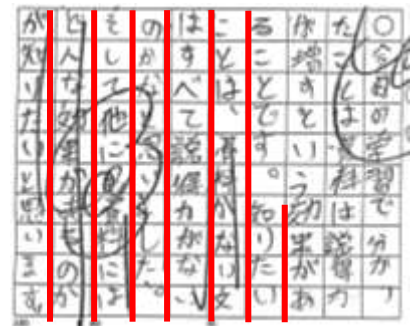
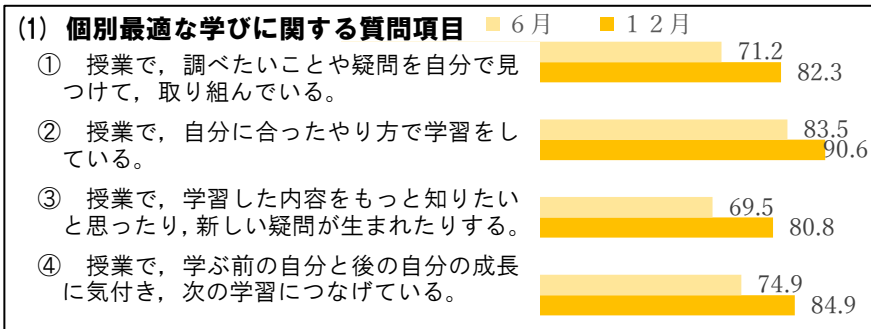


互いの意見を並べて相違点やよさを話し合う様子

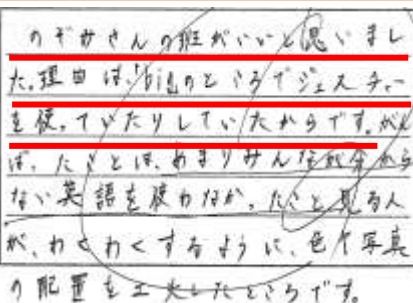
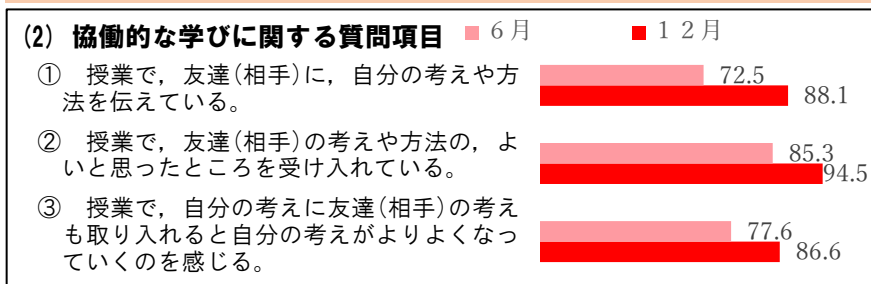
## IV 研究のまとめ

□ 子供はどう変わったか(子供実態調査 R3年6月と12月の比較)[グラフ数値:肯定的に回答した子供(%)]

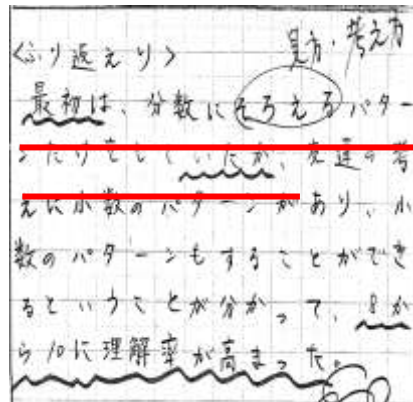
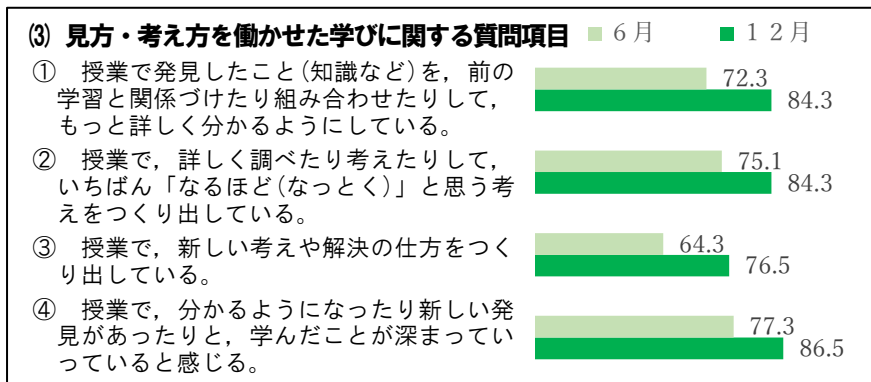
### 自己調整しながら自立的に学ぼうとしている!



### 互いを認め合い、異なる考えを組み合わせよりよく解決しようとしている!



### 見方・考え方を働かせ、学ぶよさを実感し、学びを相互に関係付けて深く理解しようとしていたり、考えをつくりだして解決しようとしていたりしている!



### □ これからの研究の方向(教師へのアンケートより)

個別最適な学び	○ 自分の問いをもって学習に取り組む姿が多く見られるようになったが、課題提示や発問、発達の段階などによっては、教師が意図していたものと異なったり、本時で身に付けさせたい資質・能力につながりにくいものになったりするときがあるので自分の問いのたせ方を工夫していく。
協働的な学び	○ タブレット型端末の活用で、幅広い視点での学び合いにつながった。タブレット型端末を活用した考えの共有・可視化の新たな方法を確立していく。 ○ 教師がファシリテーターとなり考えを広げたり深めたりする際に、子供の言葉をつなぐことが難しい。子供の言葉で考えをつないでいく。
見方・考え方を働かせた学び 新たな価値をつくりだす経験	○ 「働かせる見方・考え方は何だろう。」「見方・考え方を働かせるための効果的な活動は何だろう。」などと、より意図しながら授業デザインする。子供たちが見方・考え方を意識できるような意図的なしかけを今後も考えていく。 ○ 「授業で新しい考えや解決の仕方をつくりだしている。」については、実態調査で7割台であるなどのことから、子供自身が自分で解決・発見できたんだという実感のある授業デザインを模索する。

【R3研究同人】<本校職員> 森田勝二(校長) 中島功詞(教頭) 井神由衣圭(研修係) 粟屋敏郎 池谷俊樹 伊地知啓一郎 伊東奈央 井手健太 岩屋由美子 大塚聡子 釘田康恵 草原大 古城早紀 坂元佳子 園田竜聖 高橋誠 武石健太郎 田中梢 田中修二 田村由布子 塚田睦実 徳永智久 戸高正恵 濱田梨佳 東美里 福里智子 福留由美 平川純一郎 松清達也 松崎優子 間淵結衣 南涼子 村井桂子 山ヶ城真一 吉川美保 米重優子 久保田あみ 下戸愛子 三谷弘美 崎坂百合恵 山口千沙都 平嶺寛晶 坪山麻衣子 樋口美紀子 山元和秋 安藤めぐみ 梅北ひとみ 東入来孝子 山内明美 吉永亜由美  
<共同研究員> 津之地美帆(祓川小) 吉元梓(東原小) 田中綾・永吉大貴(寿小) 緒方康子・郡山未来(寿北小) 西郷テルミ・四元大輔(田崎小) 今田佳代・前野理恵(西原小) 牛ノ濱啓資・勝間浩也・平原雅世(西原台小) 郷原健一郎(大始良小) 西育子(鹿屋養護学校)